

テスト問題・教材再利用のすすめ: TEASY 理論編 第3,4章

○第3章 - Step.2 項目の保存

3.1 項目の保存

- ・作成した項目は MS-Word ファイルにして任意のフォルダ(e.g., doc フォルダ)に入れる

(1) 問題は1問1ファイルで保存

- ・ファイル名は問題が分かるような 項目名+tx

(指示文も別に1ファイル、ただし長文問題等切り離せないものは複数問題も1ファイル)

例) cycling4tx.doc

(2) 解答項目は1問1ファイルで保存

(リスニングであればスクリプトと解答を1ファイルにしておく)

- ・ファイル名は 問題の項目名+sc

例) cycling4sc.doc

(2) 付属資料は1問1ファイルで保存

(リスニングの音声等付属の資料も別に保存する)

- ・ファイル名は Item 資料+mp3

例) cycling4.mp3 (音声資料の例)

3.2 保存ファイルの実習例

① 例) 整序問題の作成

(1) 指示文ファイル 「次の単語を文法的大体意味的に正しい語順に並び替え...」

⇒ dir_order_tx.doc

(指示文_並び替え_学生用テキスト)

(2) 設問ファイル 「The dog (large / hand / as / as / my / twice was)」

⇒ G_ord1_tx.doc

(文法_並び替え1題_学生用テキスト)

(3) 解答ファイル 「The dog was twice as large as my hand. (as, as)」

⇒ G_ord1_sc.doc

(文法_並び替え1題_解答用)

3.3 項目の登録

- 全てのファイル (問題・解答・付属資料) は doc フォルダに保存
- [環境設定] の画面でリンクを設定しておく
- TEASY 項目バンクで[テキスト・スクリプト選択/一括取り込み]

○第4章

Step.3 &4 項目の分類と付属情報の登録

4.1 項目の分類

- TEASY バンクでは 1つの項目を4つまで細分類することができる

①構成概念 (construct)

②項目難易度

の2つの観点で分類しておく并利用しやすい

4.1.1 カテゴリ機能による項目の細分類化

(1) カテゴリ 1: スキル別 (リスニング, リーディング, ライティング, スピーキング)

(2) カテゴリ 2: 問題形式別 (多肢選択式, 空所補充, マッチング etc.)

(3) カテゴリ 3: 文法項目や語彙レベル別 (以下表参照)

⇒ラベル付けを行う

4.1.2 カテゴリ表

■以下にカテゴリ設定の例を示す

カテゴリ 1 (スキル別)	カテゴリ 2 (形式別)	カテゴリ 3 (種類)	カテゴリ 4 (その他)
1. リスニング	1.4 肢選択問題	1. 長文	1. ダイアローグ
			2. モノローグ
		2.短文	1. ダイアローグ
			2. モノローグ
	2. 短文応答問題	1. 長文	1. ダイアローグ
			2. モノローグ
		2.短文	1. ダイアローグ
			2. モノローグ
	3. ディクテーション	1. 単語レベル	
		2. 句レベル	

		...	
2 文法	1. 間違い探し問題	1. 前置詞	
		2. 時制	
		3. 関係詞	
		...	
	2. 整序問題		
	...		

■カテゴリを設定しておくことで使用の際に、

⇒絞り込み設定で特定のカテゴリのみをソートできる

⇒同じ項目ばかり選択してしまう or 異なる形式が紛れ込む ことを防ぐ

4.2 付属情報の登録

- ・(任意であるが) カテゴリ分類情報の他にも登録しておく と 便利な情報がある
- ・項目入力画面で 1 項目毎に入力 or Excel 表で一括で項目バンクに登録

4.2.1 項目難易度

⇒そのテスト項目が受験者の言語能力に合っているか、すべての受験者の能力をカバーした項目が用意されているかを検討するのに役立つ ⇒集団規準準拠テスト (NRT) の作成

⇒目標規準準拠テスト (CRT) においても、項目の学習時期と学習テーマで選択されるが、項目タイプによって難易度は異なるので項目難易度が役立つ

- ・難易度指標

(1) 教師の経験による難易度

(2) 使用テキストの読み易さ指標 (リーダビリティ)

- ・Flesh Reading Ease (難 0~100 易)

- ・Flesh-Kincaid Grade Level (アメリカの学年に対応)

$$\Rightarrow \text{FKGL} = (0.39 \times \text{total words} / \text{total sentences}) + (11.8 \times \text{total syllable} / \text{total words}) - 15.59$$

→TEASY バンクの[難易度 2]などに記録

(3) 正答率

(4) 項目応答理論の利用による項目困難度

=受験者の能力と項目困難度を同じ尺度上に算出する。

4.2.2 項目弁別力

- ・その項目がどの程度受験者の能力を識別することができるか

⇒項目分析(7章)、項目応答理論(9章)を参照

4.2.3 配点

- ・1項目は1問(e.g., 一問一答の文法問題)から複数問(e.g., クローズテスト)までわたり、また記述式問題には部分点が存在する

⇒[配点], [参考配点] の欄に記録

例) 10個の空所を持つクローズテストに部分点をつける ⇒[配点]欄に10と記入

4.2.4 テスト所要時間

- ・備考欄に項目ごとの所要時間を入力しておく、全体の時間にあったテスト作成ができる。

- ・リーディングやリスニングの理解能力測定の問題は平均1項目1分以内

4.2.5 タスクの採点方法

- ・採点方法や採点基準を予め入力しておく

① 分析的採点法: 受験者の言語表現の観点別に評価

(例: コミュニケーション能力, 文法・語彙能力, 発音 の3観点でそれぞれ評価)

② 総合的採点法: 受験者の言語表現を包括的に評価 (※主観的になりがちなため注意)

4.2.6 出典

- ・使用テキストの出典を[備考欄] or [メモ欄] に入力